

ガンコ親父の

今年夏から秋にかけて、スーパームーンと呼ばれる「地球に最接近すること」で大きく見える満月(もしくは新月)のことがニュースになった。横文字よりも日本人に分りやすい「大満月」にでもすれば良いではないかと、松次郎はぶつぶつと文句を言った。

「そつえば、あなたは狼男みたいに満月が好きでしたね」と妻の貴代が言った。それを聞いた息子の学は「狼男って、毛深いんだろ。親父みたいな頭の狼男ってのはないよ」と笑った。松次郎は気分を害されたが、怒らなかつた。

心は別のところに向かっていたのだ。今夜は久しぶりに花菜の父親がやってくる。月でも見ながら一杯やろうや、と、松次郎が声をかけていたからだ。

誰にだって孫は可愛い。酒を酌み交わす前に、「一人は孫を見て思いっきり目尻を下げた。こつやつて君と孫の話題を肴に飲むようになるなんて」と花菜の父親はしきりに不思議がった。

マグロの刺し身をつまみながら、二人は酒をぐいぐいと飲んだ。「お前、めつぽう酒に強かったな」「いや、君こそワフバミだった」と互いの酒豪ぶりを誉め讃えた。ワハハと大きな笑い声が縁側から聞こえてくる。「大丈夫かしら?」と、台所に来た学に貴代は心配顔を見せた。もう若くはないのだし、おまけに昔はよく喧嘩しあつたという話である。

二人はともに頑固だった。その頑固さは「感情一直線」と「論理一辺倒」の両極端なタイプで、極論すれば「水と油」ということになる。けつして交われないもの同士だったのだ。

もう口許が怪しくなつてきているのに、花菜の父親は杜甫が詠んだ「月夜」の詩を口ずさんだ。月夜にふさわしい教養も、逆に松次郎には迷惑だった。漢詩に興味がない松次郎はすぐに話題を変え、それを遮った。花菜の父親は松次郎から「月でも見ながら一杯」と聞いていたので、わざわざ漢詩に目を通して来たのだった。

「君は相変わらず人の気持ちを理解できないな」と花菜の父親はムツとして言った。「お前、固いんだよ、何で漢詩なんだ。せつかく気持ち良くなつて来たのに、水をさすなよ」と、応戦した。

最初は孫の顔立ちについても、お前の良いところが受け継がれているなどが、気遣つていたが、漢詩が二人を喧嘩相手だった昔に戻してしまつた。まあ、こつなるのも時間の問題だったわけだ、互いにメンツを潰されないうつに、言い分を絶対に曲げようとはしなかつた。松次郎は狼男のようにガールと唸つた。

大きな話声が聞こえて来なくなつたので、貴代が様子を見に行くと、二人とも縁側で大の字になつて伸びていた。学も心配して覗きにきたが、いびきをかいている親父達を見てなぜか羨ましかつた。

こんな年齢になつても喧嘩できる相手がいることを…。寝込んでいる二人の間には「しまつちゅ伝蔵」の空き瓶が転がっている。月の光が当たつて、瓶がキラツと歯を見せて笑つたように見えた。いい年して、ほんとうに風邪ひいても知らんぞ、と言いなながら学は毛布を取りに行った。

奄美黒糖焼酎



常圧蒸留



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)

昔ながらの手造り こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまつちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。

2014年春季全国酒類コンクール・黒糖焼酎部門第1位受賞

25度 好評発売中

喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連296番地12
TEL 0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造はこの活動を応援しています。



月夜に乾杯!

<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児に悪影響を与えるおそれがあります。